

1) 臨地実習の進捗・時期

月 年次	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1							基礎看護学実習 I			基礎看護学実習 II		
2						老年看護学実習	地域・在宅看護論実習 I				成人・老年看護学実習 I	
3		← 成人・老年看護学実習 II 成人・老年看護学実習 III		小児看護学実習	母性看護学実習	精神看護学実習	地域・在宅看護論実習 II	→ 統合実習				

2) 臨地実習の評価要領

(1) 評価方法及び評価の視点

- ① 評価は、各看護学実習の評価表をもちい、評価基準を参考にしておこなう。
- ② 評価は、援助場面・実習記録・カンファレンスへの参加状況・面接等をとおして評価する。
- ③ 実習の終了時に実習目標の到達度を確認するため、総括的評価をおこなう。
- ④ 評価は各看護学実習の終了時、授業科目毎に、臨地実習指導者と担当教員相互の調整により評価する。
評価においては、臨地では病棟師長の確認を得、学内においては看護学担当者が責任を負うものとする。
- ⑤ 出席時間数が実習時間数の3分の2に満たない学生は、当該実習の評価を受ける資格を得ることができない。

(2) 評価基準

- ① 評価の配点については、各看護学実習の評価基準を参照にする。

(3) 自己評価

- ① 自己評価は、実習期間の中間と実習終了の面接時まで、評価基準をもとに各自評価し、自己の課題が明確になるように振り返る。